

「はむらの道徳科授業指針」教師の視点①

取り扱う道徳的価値を明確にする

道徳の時間の授業づくりに当たっては、「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に記載された各内容項目に係る解説文を読み、取り扱う道徳的価値を正しく把握することが重要です。

解説文は、内容項目ごと見開き2頁にわたり、次の2点が記述されています。

第1に「内容項目の概要」。

各内容項目のキーセンテンスを取り上げ、その意味や捉え方が記されています。

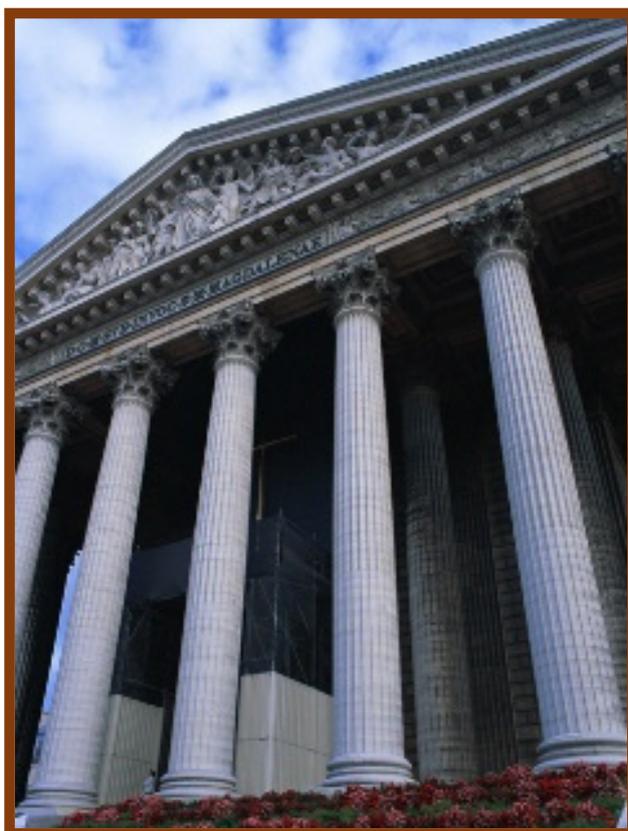
第2は「指導の要点」。

小学校版では、2学年ごとの子どもの道徳的な特性と指導のポイントが記されています。中学校版では、次の三つの記載があります。

○ 小学校の段階では、どのような指導が行われているか。

○ 中学校の段階になると、当該の内容項目に関連して子どもにどのような変化や成長がみられるようになるか。

○ 指導に当たって、重要なことは何か。



大人とは

福聚山 慈眼寺住職 大峯千日回峰行大行満大阿闍梨 塩沼 亮潤

人間生きていれば、怒り、憎しみ、悲しみと、さまざまな感情が湧いてきます。それをちゃんとコントロールできる人が、大きな人と書いて大人というのでしょうか。私たちは、人生の修行の中で、いろいろな人と出会い、学びながら、少しずつ大きな人にならなければなりません。一瞬一瞬の出来事の中で、自分で自分の心を上手にコントロールするコツを身につけ、大きな心の持ち主になるよう心がけましょう。

出典：「寄りそう心」 塩沼亮潤著（プレスアート）

※ 他律から自律へ。日々、自らの「器」を広げていきたいものです。